

島根県雲南市木次町ふるさと尺の内公園の昆虫相 (3) —マレーゼトラップ及び FIT により採集されたハナノミ科甲虫について—*

鶴 智之¹⁾・林 成多²⁾

¹⁾北海道大学大学院農学研究科昆虫体系学教室, 〒060-8589 北海道札幌市北区北 9 条西 9 丁目

²⁾ホシザキグリーン財団, 〒691-0076 島根県出雲市園町沖の島 1659-5

Insect Fauna of Shakunouchi Park in Un'nai City, Shimane Prefecture, Part 3 : Observations on the Family Mordellidae (Coleoptera) Captured by Malaise Trap and Flight Interception Trap

Tomoyuki TSURU¹⁾ and Masakazu HAYASHI²⁾

¹⁾Systematic Entomology, Department of Ecology and Systematics, Graduate School
of Agriculture, Hokkaido University, Sapporo, Hokkaido, 060-8589 Japan

²⁾Hoshizaki Green Foundation, Okinoshima 1659-5, Sono, Izumo, Shimane Pref.,
691-0076 Japan

Abstract A continuous sampling was carried out in order to obtain more information about the insect fauna of Shakunouchi Park in Un'nai City, Shimane Prefecture, using Malaise trap and flight interception trap (FIT) from April 2006 through October 2006. In this survey, adult mordellid beetles were monitored to determine their composition and phenology. A total of 288 mordellid specimens, representing 12 genera and 22 species were captured. Nineteen species are newly recorded from Shimane Prefecture. Specimens were collected for about five months from April 27 to September 29. The single activity peak of mordellid beetles was observed from the late of June to late July.

Key words : Mordellidae, Malaise trap, flight interception trap, Shakunouchi Park, insect fauna, phenology, Shimane Prefecture

キーワード : ハナノミ科, マレーゼトラップ, FIT, ふるさと尺の内公園, 昆虫相, 発生消長, 島根県

はじめに

ふるさと尺の内公園は島根県雲南市木次町にある面積約 26,800m²の多自然型公園である。公園の後背地には、主にこの地方の本来の植生であるス

ダジイを中心とした照葉樹林があり、その一部にはコナラ林やスギ・ヒノキの人工林も存在する(杵村, 1998)。

著者の一人である林は、2006 年 4 月から 10 月までの期間に、尺の内公園内に設置したマレーゼトラップ(以下、MT と略す)およびフライト・イン

* ホシザキグリーン財団研究業績 第 67 号

ターセプション・トラップ (flight interception trap; 以下, FIT と略す) を用いてきわめて多くの昆虫類を捕獲した. このうちマルハナノミ科など水生甲虫類については林 (2006) で, カミキリムシ・ハムシ類については藤原・林 (2007) で, レッドデータブック掲載種及び希少種については林 (2007) ですでに報告されている. ハナノミ科甲虫についてはこれまでに本公園からの記録はなく, 島根県内においてもいくつかの断片的な報告があるのみである. さらに, 日本国内においてハナノミ類の定量的かつ長期的な調査に関する報告例は非常に少なく, 成虫の季節消長など基礎的な生態についてはほとんど解明されていない.

そこで今回は尺の内公園で行われた昆虫相調査に関する第3報として, ハナノミ科甲虫についての記録を行うとともに, これまでに島根県内から報告されている種を含めた目録を作成し文末に付した. さらに長期的なトラップ調査を行うことで明らかとなったハナノミ類の生態や各トラップの有効性についても考察する.

調査方法

本調査では, MT と FIT を使用してハナノミ類の採集を行った. MT には HOGA 社製の三角型 (高さ 1.7m, 長さ 1.6m, 幅 1.1m; 黒色ネット製) を 2 基使用し, FIT には「丸山式 FIT」(衝突板: 高さ 43cm, 幅 62cm; 屋根付き) (丸山, 2006) を 3 基使用した. それぞれのトラップは, 公園部分とその後背林の境界に設置した. 保存液は MT では 75% エタノールを, FIT では 10% 酢酸水溶液に洗剤を加えたものを使用し, 回収後は 75% エタノールで一時的に保管した. 調査期間は 2006 年 4 月 6 日から 10 月 26 日で, 不定期ではあるが 1 週間から 2 週間の間隔を基本として回収を行った. 得られた標本はすべて乾燥標本とし, ホシザキ野生生物研究所と著者の一人である鶴によって保管されている. 同定には主に「原色日本甲虫図鑑Ⅲ」(高桑・畑山, 1985), 「近畿地方のヒメハナノミ (予報)」(初宿, 2000), 「日本産ハナノミ科ハナノミ族概説 4, 7」(高桑, 2000a, b) を用いたが, 近似種との区別が難解なものについては適時原記載論文などを参照した.

捕獲されたハナノミ科甲虫

今回の調査によって, MT と FIT の両トラップから合計 12 属 22 種 288 個体のハナノミが捕獲された. このうち島根県から初記録のものは 19 種に及んだ. 以下に今回の調査で記録された種について, 各種の採集データ (個体数, 日付, トラップの種類) とともに記述する. なお本調査で島根県初記録の種には和名の後に*印を付した.

ハナノミ族 *Mordellini*

1. オオオビハナノミ

Glipa (Macroglipa) shirozui Nakane

主にブナ帯に分布するが, 東京都高尾山や奈良県春日山などの記録もあり, 良好な照葉樹林があれば生息するものと思われる.

2 exs. 22.vii.-5.viii.2006 MT

2. アラキハナノミ*

Mordellaria arakii (Nakane et Nomura)

前種と同様にブナ帯で多く採集されているが, シイ・カシ帯からの記録もある. 日本海側からの採集例は少ない.

1 ex. 5.-17.vi.2006 FIT

2 exs. 17.-29.vi.2006 MT

1 ex. 17.-29.vi.2006 FIT

1 ex. 29.vi.-8.vii.2006 MT

2 exs. 8.-22.vii.2006 MT

ヒメハナノミ族 *Mordellistenini*

3. クロヒメハナノミ

Mordellistena (Mordellistena) comes Marseul

普通種. 体全体が黒色となることで日本産の他種と区別できるが, 体サイズや雄交尾器などに大きな変異があり, 複数種含まれている可能性がある (Shiyake, 1994). 幼虫はアサ (*Cannabis* sp., アサ科) やユリ (*Lilium* sp., ユリ科) の茎に穿孔し, ゴール (虫えい) を形成する.

1 ex. 2.-5.v.2006 FIT

1 ex. 19.v.-5.vi.2006 MT

2 exs. 5.-17.vi.2006 MT

1 ex. 17.-29.vi.2006 MT

4. トケジクロヒメハナノミ*

Mordellistena (*Mordellistena*) *tokejii* Nomura

前種に似るが、口器、触角基部、前・中脚、後脚脛節端棘が黄褐色となる点で区別できる。

1 ex. 5.-17.vi.2006 MT

1 ex. 5.-17.vi.2006 FIT

5. クロヒメハナノミ属の1種*

Mordellistena (*Mordellistena*) sp.

雄雌それぞれ一個体ずつ捕獲されているが、雄交尾器の形状を見ると該当する種がなく未記載種の可能性が高い。

2 exs. 17.-29.vi.2006 MT

6. トゲナシヒメハナノミ*

Mordellina (*Mordellina*) *atrofusca* (Nomura)

普通種。訪花習性を持たないため記録はあまり多くないが、MTでは各地で多数捕獲されているようである。同属の *M. hirayamai* の成虫は枯葉に生えた子嚢菌（分生子）を摂食することが報告されており（Tsuru, 2004）、本種も同様の食性を持つと思われる。

2 exs. 5.-17.vi.2006 MT

1 ex. 5.-17.vi.2006 FIT

8 exs. 17.-29.vi.2006 MT

4 exs. 29.vi.-8.vii.2006 MT

6 exs. 8.-22.vii.2006 MT

6 exs. 22.vii.-5.viii.2006 MT

7. チャオビヒメハナノミ*

Mordellina (*Mordellina*) *brunneotincta* (Marseul)

普通種。前種と同様に訪花習性を持たず、成虫は子嚢菌を摂食すると思われる。本州産の他種とは前胸背板に3つの黒色紋を持つことで容易に区別できる。

1 ex. 5.-17.vi.2006 MT

5 exs. 17.-29.vi.2006 MT

2 exs. 29.vi.-8.vii.2006 MT

7 exs. 8.-22.vii.2006 MT

2 exs. 22.vii.-5.viii.2006 MT

1 ex. 9.-29.ix.2006 MT

8. アマミヒメハナノミ*

Mordellina (*Pseudomordellistena*) *amamiensis* (Nomura)

普通種。強い訪花習性を持つ。本州以南の各地に分布するが、西日本での記録が多い。

3 exs. 17.-29.vi.2006 MT

5 exs. 8.-22.vii.2006 MT

1 ex. 8.-22.vii.2006 FIT

4 exs. 22.vii.-5.viii.2006 MT

9. ヤマトヒメハナノミ

Mordellina (*Pseudomordellistena*) *yamamotoi* (Nomura)

普通種。北海道から九州まで広く分布し、強い訪花習性を持つ。

1 ex. 5.-17.vi.2006 MT

2 exs. 17.-29.vi.2006 MT

1 ex. 29.vi.-8.vii.2006 MT

10. カグヤヒメハナノミ*

Mordellina (*Pseudomordellistena*) *kaguyahime* (Nomura et Katô)

普通種。前種同様北海道から九州まで分布し、訪花習性を持つ。形態の類似した種が多く同定は難しい。

2 exs. 29.vi.-8.vii.2006 MT

11. キンモンヒメハナノミ*

Falsomordellistena auriguttata Nomura

訪花習性を持つと思われるが、著者らは花での採集経験がないので詳細は不明。

7 exs. 19.v.-5.vi.2006 MT

2 exs. 19.v.-5.vi.2006 FIT

3 exs. 5.-17.vi.2006 MT

2 exs. 5.-17.vi.2006 FIT

12. オカモトヒメハナノミ*

Falsomordellistena okamotoi (Kôno)

普通種。本州から沖縄まで分布し、強い訪花習性を持つ。

1 ex. 29.vi.-8.vii.2006 MT

10 exs. 8.-22.vii.2006 MT

2 exs. 8. -22. vii. 2006 FIT

4 exs. 22. vii. -5. viii. 2006 MT

13. シナノヒメハナノミ*

Falsomordellistena shinanoensis Tokeji

訪花習性を持つと思われるが、著者らは花での採集経験がないので詳細は不明。珍しい種のようにこれまでの記録は少ない。

1 ex. 8. -22. vii. 2006 FIT

14. オオメヒメハナノミ*

Glipostena pelecotomoidea (Pic)

ヒメハナノミ族の中ではきわめて大型で、体長は8mmを超える。夜行性で、多孔菌類のキノコに集まりこれらを摂食する(豊田, 1997; 豊田・鶴, 2002)。近年になって報告例が増えており、低山地の里山的環境に生息すると思われる。

1 ex. 5. -17. vi. 2006 MT

15. クリゲヒメハナノミ*

Glipostenoda trichophora (Nomura)

同定の困難な種。訪花習性を持つ。

2 exs. 29. vi. -8. vii. 2006 MT

2 exs. 29. vi. -8. vii. 2006 FIT

4 exs. 8. -22. vii. 2006 MT

1 ex. 8. -22. vii. 2006 FIT

1 ex. 22. vii. -5. viii. 2006 MT

16. ナミアカヒメハナノミ*

Falsomordellina luteoloides (Nomura)

普通種。雄の小顎髭(maxillary palpus)末端節は台形となる。訪花習性はなく、下草のスウィーピングや照葉樹のビーティングで得られる。成虫で越冬することが知られている。

1 ex. 27. iv. -2. v. 2006 MT

5 exs. 29. vi. -8. vii. 2006 MT

17 exs. 8. -22. vii. 2006 MT

1 ex. 8. -22. vii. 2006 FIT

10 exs. 22. vii. -5. viii. 2006 MT

9 exs. 5. -17. viii. 2006 MT

3 exs. 17. -26. viii. 2006 MT

2 exs. 9. -29. ix. 2006 MT

17. タカオヒメハナノミ*

Falsomordellina takaosana (Kôno)

普通種。前種に似るが、後脚脛節段刻は前種より1本多く5本となる。本種も前種と同様に訪花習性を持たず、成虫で越冬すると思われる。

3 exs. 27. iv. -2. v. 2006 MT

18. ガロアヒメハナノミ*

Tolidopalpus galloisi (Kôno)

普通種。雄の小顎髭末端節は肥大化し細長い豆形となる。尾節板は非常に短い。訪花習性を持たず、林縁のスウィーピングなどで得られる。

1 ex. 17. -29. vi. 2006 MT

4 exs. 29. vi. -8. vii. 2006 MT

1 ex. 29. vi. -8. vii. 2006 FIT

4 exs. 8. -22. vii. 2006 MT

1 ex. 22. vii. -5. viii. 2006 MT

19. ナガトゲヒメハナノミ*

Tolidostena japonica (Tokeji)

雄の前脚跗節第1節の端部には棘状突起がある。訪花習性を持つ。

1 ex. 17. -29. vi. 2006 MT

20. アワヒメハナノミ*

Pseudotolida awana (Kôno)

普通種。雄の小顎髭末端節は肥大化しボート形となる。訪花習性はない。

9 exs. 29. vi. -8. vii. 2006 MT

22 exs. 8. -22. vii. 2006 MT

4 exs. 8. -22. vii. 2006 FIT

5 exs. 22. vii. -5. viii. 2006 MT

21. アカヒメハナノミ*

Mordellistenoda aka (Kôno)

雄の小顎髭末端節は著しく肥大化し楕円形となる。西日本に多く、林床のスウィーピングなどで得られる。訪花習性はない。

1 ex. 9. -29. ix. 2006 MT

22. オオスミヒメハナノミ*

Mordellistenoda ohsumiana (Nakane)

普通種。雄の小顎髭末端節は外縁が肥大化し台形となる。訪花習性はない。

2 exs. 29. vi. -8. vii. 2006 MT

31 exs. 8. -22. vii. 2006 MT

19 exs. 22. vii. -5. viii. 2006 MT

7 exs. 5. -17. viii. 2006 MT

捕獲されたハナノミ類の特徴と生態

採集された種の特徴

今回の調査では、日本海側からの記録がほとんどないアラキハナノミや全国的に報告例の少ないシナノヒメハナノミのような珍しい種も少数捕獲されたが、大部分は本州西部の低山地に普遍的に分布する種で占められていた。またオオオビハナノミ、アラキハナノミ、オオメヒメハナノミの3種は、良好な照葉樹林やクスギ・コナラ林に分布する種であり、優占種となっていたオオスミヒメハナノミ (59 個体, 20.5%), ナミアカヒメハナノミ (48 個体, 16.7%), アワヒメハナノミ (40 個体, 13.9%) の3種も筆者の採集経験では同様の環境を好む種である。このようなハナノミ類の種構成は、本調査地に見られるスタジイを主とする照葉樹林やコナラ林などの植生を反映したものであると考えられる。

発消長

捕獲されたハナノミ類の個体数及び種数の季節変動をそれぞれ図1, 2に示した。捕獲された期間は4月27日から9月29日までの約5カ月間で、4月上旬と10月からは一頭も捕獲されなかった。個体数、種数ともに5月中旬から増加し始め、7月上旬にピークを迎えた。その後個体数については7月下旬から、種数は8月上旬から急速に減少し始め、8月下旬にはほとんど捕獲されなくなった。Jackman・Nelson (1995) は1990年にアメリカ、テキサス州、オースティンにおいてMTを用いた調査を行い、35種754個体のハナノミ類を捕獲している。この調査での捕獲期間は3月13日から12月3日までの約9カ月間で、今回の結果よりも4カ月近く長かった。これはテキサス州オースティンの気候が今回の調査地である島根県雲南市より温暖であることが影響しているものと思われる。今後、日本国内においてもより温暖な地域で調査を

行えば捕獲期間は長くなると推察される。

さらに今回得られた22種についてそれぞれの発生状況を図3に示した。ほとんどの種が6月上旬から8月上旬の期間に発生しており、約1カ月から2カ月経過すると捕獲されなくなった。なかでもナミアカヒメハナノミは発生期間が非常に長く、4月下旬から9月下旬まで捕獲されていた。本種は成虫で越冬することが知られており、春先は越冬個体、夏から新成虫個体と考えられる。

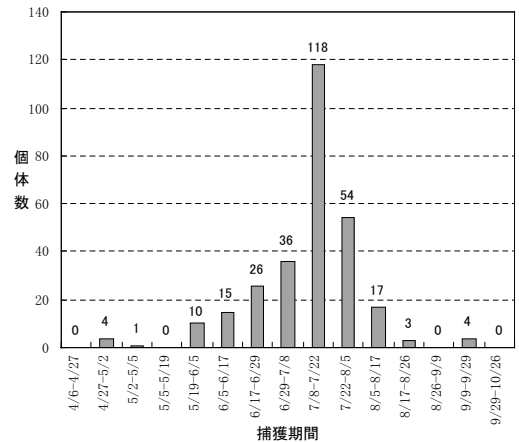


図1 捕獲個体数の季節変化 (棒上部の数値は各期間の捕獲個体数を示す)

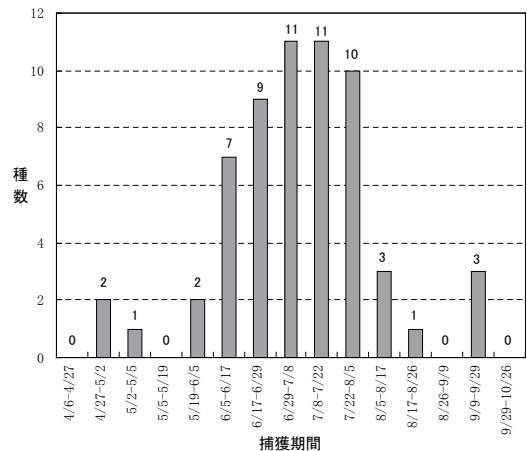


図2 捕獲種数の季節変化 (棒上部の数値は各期間の捕獲種数を示す)

種 名	N	MT	FIT	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT
オオオビハナノミ	2	○								
アラキハナノミ	7	○	○							
クロヒメハナノミ	5	○	○							
トゲジクロヒメハナノミ	2	○	○							
クロヒメハナノミ属の1種	2	○								
トゲナシヒメハナノミ	27	○	○							
チャオビヒメハナノミ	18	○								
アマミヒメハナノミ	13	○	○							
ヤマモトヒメハナノミ	4	○								
カグヤヒメハナノミ	2	○								
キンモンヒメハナノミ	14	○	○							
オカモトヒメハナノミ	17	○	○							
シナノヒメハナノミ	1		○							
オオメヒメハナノミ	1	○								
クリゲヒメハナノミ	10	○	○							
ナミアカヒメハナノミ	48	○	○							
タカオヒメハナノミ	3	○								
ガロアヒメハナノミ	11	○	○							
ナガトゲヒメハナノミ	1	○								
アワヒメハナノミ	40	○	○							
アカヒメハナノミ	1	○								
オオスミヒメハナノミ	59	○								

図3 ハナノミ科各種の発生消長 (Nは捕獲総個体数を、○印はそれぞれのトラップで捕獲されたことを示す)

マレーゼトラップの有効性

今回の調査で得られたハナノミ科甲虫のうち、MTで捕獲されたものは12属21種266個体、FITは8属12種22個体であった。種数、個体数ともにFITよりもMTのほうが顕著に多く、種数では1.6倍、個体数では12.1倍となった。ほぼすべての種がMTでより多く捕獲されており、FITでのみ得られたのはシナノヒメハナノミの一種に止まった。今回の調査はMTとFIT間でトラップサイズが異なっているために単純に両者を比較することはできないが、ハナノミ類においてはMTのほうがより効果的なトラップである可能性が示唆され

た。また今回得られた22種のうち訪花習性を持つと思われるものはアマミヒメハナノミ、ヤマモトヒメハナノミ、カグヤヒメハナノミ、キンモンヒメハナノミ、オカモトヒメハナノミ、シナノヒメハナノミ、クリゲヒメハナノミ、ナガトゲヒメハナノミの8種であった。ハナノミ類の多くが訪花習性を持っていることを考慮すると、今回の調査で得られた訪花性種はけっして多いとは言えない。溝田・今坂(1997)は訪花性昆虫の捕獲に有効なベンジリアセテートトラップ(サンケイトラップ)を使用して10属28種のハナノミ類を捕獲しているが、このうち訪花性種は18種に及んでいる。今

後より効果的なハナノミ類の採集を行うにはMTの他にベンジルアセテートトラップなども併用した総合的な調査が必要となるであろう。

謝 辞

本報告を執筆するにあたり、高桑正敏博士（神奈川県立生命の星地球博物館）から島根県におけるハナノミ科の記録について多数の文献情報をご教示いただいた。また本研究の一部は文部科学省21世紀COEプログラム（北海道大学 新・自然史科学創成）の助成によって行われた。ここに心から感謝申し上げる。

文 献

加藤重和・椋本博昭（2003）安蔵寺山の甲虫。すかしば, (51): 1-8.

門脇久志（1983）隠岐島の甲虫類目録。すかしば, (20): 3-20.

門脇久志（2001）中根猛彦博士同定の隠岐の甲虫類。すかしば, (49): 39-55.

初宿成彦（2000）近畿地方のヒメハナノミ（予報）。Insecta Miyatakeana: 130-136.

Shiyake, S. (1994) On the hind tibial spurs in the genus *Mordellistena* (Coleoptera: Mordellidae). *Bulletin of Osaka Museum of Natural History*, **48**: 9-22.

Jackman, J. A., and C. R. Nelson (1995) Diversity and phenology of tumbling flower beetles (Coleoptera: Mordellidae). *Entomological News*, **106**: 97-107.

杵村喜則（1998）木次町尺の内（昆虫の森）の植生と植物相。ホシザキグリーン財団研究報告, (2): 109-120.

高桑正敏（2000a）日本産ハナノミ科ハナノミ族概説4。甲虫ニュース, (129): 1-6.

高桑正敏（2000b）日本産ハナノミ科ハナノミ族概説7。甲虫ニュース, (132): 1-4.

高桑正敏・畑山武一郎（1985）ハナノミ科。「原色日本甲虫図鑑Ⅲ」: 376-397, pl. 65-67. 保育社.

Tsuru, T. (2004) Alimentary contents of a tumbling flower beetle, *Mordellina hirayamai* (Coleop-

tera, Mordellidae). *Jpn. J. Syst. Ent.*, **10**: 227-229.

豊田浩二（1997）夜間キノコに来るオオメヒメハナノミ。甲虫ニュース, (120): 12.

豊田浩二・鶴 智之（2002）オオメヒメハナノミの食性及び産卵行動について。甲虫ニュース, (137): 15.

野津 裕（1978）島根県の甲虫。すかしば, (9): 9-12.

野村 鎮（1958）日本及びその近傍のハナノミ属に就いて。桐朋学報, **7**: 35-58.

林 成多（2006）雲南市木次町ふるさと尺の内公園の水生昆虫類。ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 113-119.

林 成多（2007）島根県雲南市木次町ふるさと尺の内公園の昆虫相 (2) レッドデータブック掲載種と希少種の記録。ホシザキグリーン財団研究報告, (10): 225-229.

福井修二（1988）隠岐諸島甲虫採集リスト (1988. 6)。すかしば, (30): 39-41.

福井修二（1994a）三瓶山の鞘翅類。「三瓶山の昆虫相とその保全」: 31-55. 島根県昆虫研究会.

福井修二（1994b）瑞穂町の甲虫類。「島根県瑞穂町の昆虫類」: 27-37. 島根県昆虫研究会.

藤原淳一・林 成多（2007）島根県雲南市木次町ふるさと尺の内公園の昆虫相 (1) ホソカミキリムシ科・カミキリムシ科・ハムシ科（甲虫目ハムシ上科）。ホシザキグリーン財団研究報告, (10): 211-223.

丸山宗利（2006）効果的な簡易型屋根付きFITとその作り方。甲虫ニュース, (153): 20-21.

溝田浩二・今坂正一（1997）紀伊半島南部における訪花性甲虫群集の自然林・人工林間の比較—ベンジルアセテートトラップの利用—。北海道大学農学部演習林研究報告, **54**: 299-326.

島根県産ハナノミ科甲虫目録

本目録はすでに島根県内から記録されている種に今回の調査で新たに得られた種を加えて作成した。現段階では調査地点も少なく十分な検討が行えたとは言いがたいが、本報告で一旦まとめることで今後の調査の参考になれば幸いである。リストは和名、学名、出典の順に列記した。記録されたハナノミ類は2族14属30種である。

ハナノミ族 Mordellini (4属6種)

- モンハナノミ *Tomoxia nipponica* Kôno (加藤・椋木, 2003)
 ネジロモンハナノミ *Tomoxia scutellata* Kôno (加藤・椋木, 2003)
 オオオビハナノミ *Glipa (Macroglipa) shirozui* Nakane (野津, 1978; 門脇, 1983; 本報告)
 ピックオビハナノミ *Glipa (M.) pici* Ermisch (加藤・椋木, 2003)
 アラキハナノミ *Mordellaria arakii* (Nakane et Nomura) (本報告)
 キンオビハナノミ *Variimorda flavimana* (Marseul) (野村, 1958; 福井, 1994a)

ヒメハナノミ族 Mordellistenini (10属24種)

- クロヒメハナノミ *Mordellistena (Mordellistena) comes* Marseul (福井, 1994a; 本報告)
 トケジクロヒメハナノミ *Mordellistena (M.) tokeji* Nomura (本報告)
 セグロヒメハナノミ *Mordellistena (M.) fuscoturalis* Nomura (福井, 1994a, b)
 コクロヒメハナノミ *Mordellistena (M.) insignata* Ermisch (福井, 1994a)
 ノムラクロヒメハナノミ *Mordellistena (M.) nomurai* Tokeji (福井, 1994b)
 トゲナシヒメハナノミ *Mordellina (Mordellina) atrofusca* (Nomura) (本報告)
 チャオビヒメハナノミ *Mordellina (M.) brunneotincta* (Marseul) (本報告)
 アマミヒメハナノミ *Mordellina (Pseudomordellistena) amamiensis* (Nomura) (本報告)
 ヤマモトヒメハナノミ *Mordellina (P.) yamamotoi* (Nomura) (福井, 1988, 1994a; 本報告)
 カグヤヒメハナノミ *Mordellina (P.) kaguyahime* (Nomura et Katô) (本報告)
 フタモンヒメハナノミ *Falsomordellistena altestrigata* (Marseul) (門脇, 1983, 2001)
 キンモンヒメハナノミ *Falsomordellistena aurigtata* Nomura (本報告)
 オカモトヒメハナノミ *Falsomordellistena okamotoi* (Kôno) (本報告)
 チャイロヒメハナノミ *Falsomordellistena rosseola* (Marseul) (門脇, 1983, 2001)
 シナノヒメハナノミ *Falsomordellistena shinanoensis* Tokeji (本報告)
 オオメヒメハナノミ *Glipostena pelecotomoidea* (Pic) (本報告)
 クリゲヒメハナノミ *Glipostenoda trichophora* (Nomura) (本報告)
 ナミアカヒメハナノミ *Falsomordellina luteoloides* (Nomura) (本報告)
 タカオヒメハナノミ *Falsomordellina takaosana* (Kôno) (本報告)
 ガロアヒメハナノミ *Tolidopalpus galloisi* (Kôno) (本報告)
 ナガトゲヒメハナノミ *Tolidostena japonica* (Tokeji) (本報告)
 アワヒメハナノミ *Pseudotolida awana* (Kôno) (本報告)
 アカヒメハナノミ *Mordellistenoda aka* (Kôno) (本報告)
 オオスミヒメハナノミ *Mordellistenoda ohsumiana* (Nakane) (本報告)